

信州の環境にやさしい農産物認証取得者事例調査票（穀類用）

認証取得者氏名	(農) 北の原	認証番号	50-00441	地事名	上伊那
地域 (標高)	駒ヶ根市 (676m)				
土壌 (土性)	黒ボク土				

項目	生産計画の内容		補足メモ																															
1 栽培 状況	(1) 品目	米 (品種: コシヒカリ)																																
	(2) 面積	986.6 a																																
	(3) 栽培戸数又は労働力	1 (法人化)	参加農家数43戸																															
	(4) 栽培期間	平成28年5月 ~ 平成28年9月																																
	(5) 収穫期間	平成28年9月12日頃 ~ 平成28年9月15日頃																																
	(6) 収穫量	H27実績 49,800 kg (うち出荷量: 49,800 kg)																																
	(986.6a当たり)	H28計画 56,400 kg (うち出荷量: 56,400 kg)	572kg/10a																															
2 栽培 方法	(1) 土づくり	稲わら還元と有機質肥料の施用																																
	(2) 播種	平成28年 4 月 19 日																																
	(3) 育苗	平成28年 4 月 22 日 ~ 月 日																																
	(4) 田植え	平成28年 5 月 10 日 ~ 5 月 13 日																																
	(5) 施肥	<p>化学肥料を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <p>有機質肥料施用技術</p> <p>技術を導入する際の考え方</p> <p>有機由来の肥料及び鶏糞を施用</p> <p>(有機由来の肥料は、肥料のコスト削減のため、一発施肥とするよう「オンリーワン有機N35」を選定した。なお、施肥は田植え同時施肥(側条施肥)を行い、労働コスト節減に努めている。)</p> <p>土壌診断を実施し、結果を考慮した適正施肥を行う</p> <p>肥料の施用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">肥料の種類</th> <th rowspan="2">施用量 (kg/10a)</th> <th colspan="3">成分量 (kg)</th> </tr> <tr> <th>窒素 うち化学由来</th> <th>リン酸</th> <th>加里</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鶏糞</td> <td>120</td> <td>3.6</td> <td>0</td> <td>5.4</td> <td>3.6</td> </tr> <tr> <td>オンリーワン有機N35 (イーチャン35)</td> <td>60</td> <td>7.2</td> <td>4.7</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>180</td> <td>10.8</td> <td>4.7</td> <td>11.4</td> <td>9.6</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <tr> <td>化学由来窒素成分量 (kg/10a)</td> <td>4.7</td> </tr> <tr> <td>地区慣行施肥量 (kg/10a)</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>低減率 (%)</td> <td>57.3%</td> </tr> </table>		肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量 (kg)			窒素 うち化学由来	リン酸	加里	鶏糞	120	3.6	0	5.4	3.6	オンリーワン有機N35 (イーチャン35)	60	7.2	4.7	6	6	合計	180	10.8	4.7	11.4	9.6	化学由来窒素成分量 (kg/10a)	4.7	地区慣行施肥量 (kg/10a)	11	低減率 (%)
肥料の種類	施用量 (kg/10a)	成分量 (kg)																																
		窒素 うち化学由来	リン酸	加里																														
鶏糞	120	3.6	0	5.4	3.6																													
オンリーワン有機N35 (イーチャン35)	60	7.2	4.7	6	6																													
合計	180	10.8	4.7	11.4	9.6																													
化学由来窒素成分量 (kg/10a)	4.7																																	
地区慣行施肥量 (kg/10a)	11																																	
低減率 (%)	57.3%																																	

2 栽培 方法	(6) 病害虫防除	<p>化学合成農薬を50%以上削減するために導入している具体的な技術</p> <p>苗箱施薬剤を使用</p> <p>技術を導入する際の考え方</p> <p>病害虫の初期発生を抑制するため、一定期間効果が期待できる苗箱施薬剤を活用</p> <p>病害虫防除の内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>使用農薬名※</th> <th>倍率・使用量</th> <th>有効成分数</th> <th>散布回数</th> <th>成分カウント</th> <th>除外カウント</th> <th>慣行回数への付加カウント</th> <th>慣行回数</th> <th>対象病害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>殺虫殺菌剤</td> <td>① Dr.オレゼ[®]フェルテラ粒剤</td> <td>50g/10a</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>いもち病</td> </tr> <tr> <td>殺菌剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>殺虫剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>除草剤</td> <td>② ピラクロン1キロ粒剤</td> <td>1kg/10a</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td rowspan="2">4</td> <td rowspan="2">ホタルイ、オモダカ、クダマツ等</td> </tr> <tr> <td></td> <td>③ ベストパートナージャンボ</td> <td>250g/10a</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>植調剤</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">※農薬名に番号を付記</td> <td>合計</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>農薬の使用回数</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>地区慣行農薬使用回数</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>削減率(%)</td> <td>66.7%</td> </tr> </table>		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫	殺虫殺菌剤	① Dr.オレゼ [®] フェルテラ粒剤	50g/10a	2	1	2				いもち病	殺菌剤								5		殺虫剤								3		除草剤	② ピラクロン1キロ粒剤	1kg/10a	1	1	1			4	ホタルイ、オモダカ、クダマツ等		③ ベストパートナージャンボ	250g/10a	1	1	1			植調剤										※農薬名に番号を付記						合計	4	0	0	12	農薬の使用回数	4	地区慣行農薬使用回数	12	削減率(%)	66.7%
		使用農薬名※	倍率・使用量	有効成分数	散布回数	成分カウント	除外カウント	慣行回数への付加カウント	慣行回数	対象病害虫																																																																													
	殺虫殺菌剤	① Dr.オレゼ [®] フェルテラ粒剤	50g/10a	2	1	2				いもち病																																																																													
	殺菌剤								5																																																																														
	殺虫剤								3																																																																														
除草剤	② ピラクロン1キロ粒剤	1kg/10a	1	1	1			4	ホタルイ、オモダカ、クダマツ等																																																																														
	③ ベストパートナージャンボ	250g/10a	1	1	1																																																																																		
植調剤																																																																																							
※農薬名に番号を付記						合計	4	0	0	12																																																																													
農薬の使用回数	4																																																																																						
地区慣行農薬使用回数	12																																																																																						
削減率(%)	66.7%																																																																																						
(7) 雑草防除	<ul style="list-style-type: none"> ・株間は乗用の機械除草。 ・畦畔は機械除草。 <p>ピラクロンを田植え同時で施用し、その後ベストパートナージャンボを施用して以降は、乗用の機械除草で除草を実施。 畦畔も月1回程度機械除草を実施。</p>																																																																																						
(8) 水管理	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の構成員のうち3人（地主でない者）で地区を分担して管理。 																																																																																						
(9) 収量の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・天候も順調に推移し、適度な降雨もあったため平年通りの収穫が見込まれる。 																																																																																						
(10) その他特記事項																																																																																							

3 販売 状況	(1) 主な販売地域	県内、中京
	(2) 販売方法	<ul style="list-style-type: none"> ・JA出荷（一部買戻し） ・直売所（駒ヶ根市内）出荷
	(3) 県認証の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・包装資材に認証マーク（及びエコファーマーマーク）を貼付し、環境保全型農業に取り組んでいることをPR
	(4) 実需者や消費者の反応、メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所を訪れた県外（東京、京都等）の観光客がお土産として購入し、その後、リピーターとなっている。

